

80年代へむけ、新たな反合理化闘争の構築を！

——急迫する国鉄大合理化攻勢を前に、今こそ「貨物安定宣言」路線の誤りを正すとき！——

—— 大幅な要員合理化と五、〇〇〇キロのローカル線切り捨て ——

一月二四日運輸省政策審議会国鉄地方交通線問題小委員会は国鉄の営業線二万キロのうちの約半分に当る九千キロの地方交通線のうちの五千キロを国鉄から切り離し、バス輸送にするという報告書を発表し、これを受けた森山運輸大臣は二六日、高木総裁以下の幹部一五名を呼びつけ、人員合理化計画の全面見直しを含む国鉄側の具体的再建計画を六月までに出すよう指示した。

八〇年へ向けた国鉄合理化のねらい

この指示の内容は「五五年度までに一万五千人の削減というペースでは生ぬるい」というものであり「今後一〇年間に二〇万人が定年退職するという「デモナス」をとらえて徹底的な要員合理化をやれ」というものである。今や八〇年代における国鉄合理化の狙いは明らかである。五三・一〇において「武蔵型貨物合理化」の突破口を切り拓いた政府・国鉄当局は、大幅な要員合理化の野望を全面展開させ、ローカル線切り捨て、大都市通勤圏（国電）における「私鉄なみ（五二年度国鉄監査計画）」の要員合理化（乗務効率の大巾アップと地上勤務者の全面的下請化）へと乗り出してきたのである。

その背景は、うちつづく経済不況、円高攻勢などにしめられているように解決不可能な体制的危機のなかで、その危機をのりきらんと全産業にわたる合理化攻撃をかけてきている。貨物合理化にせよ、労働者の生活と権利の一切をはくだし、闘う労働組合の解体・戦争に協力する組合（産業報国会化）へ変質をねらっているのだ。

このような状況を見るとき、五三・一〇貨物合理化

化の決定的時点で動労が「貨物安定宣言」を発したことの誤りを、われわれは今こそ正しく総括しなければならぬ。

なぜ「安定宣言」ではダメなのか

「ストライキをやらないから、当局は努力して荷主を開拓しろ」という思想からくる「安定宣言」は別に貨物だけに限らない。今日、ローカル線のストライキが「不安定要素」となつて旅客が他の交通機関に逃げるといふ理屈もなりたつたのだ。ローカル線切り捨て方針に対して「ストライキをやらないから当局は旅客を確保しろ」ということと、「貨物安定宣言」とどこがちがうのか。

「安定宣言」は合理化にさらされた労働者の闘争権利を奪うものだ。この間の動労の闘いは、全て貨物を対象外としてきた。従つて、「安定宣言」は、労働基本権の放棄、反合理化闘争の放棄、三里塚ジェット闘争の裏切りであり、戦時的労働者の幻滅を与え、労働組合を解体するものだ。

自らの生活を守る真の反合理化闘争へ

千葉地本が「貨物安定宣言」に反対し、いままも反対し続けている根拠はこれである。

「貨物安定宣言」の路線でこのローカル線切り捨て攻撃とどう闘おうというのか。

われわれが一部分の暴力をもつてする横暴と対決することは、当局の苛酷な合理化計画に苦しむ闘いの中でかちとってきた自らの職場と労働条件、生活を守る闘いでもあるのだ。断固勝利しなければならぬ。

三里塚で、ハイキング・芋つくり・交流会

三里塚反対同盟の石橋副委員長の御好意により、動労千葉に対し、農地（畑）一五〇坪の提供を行いました。

青空のもと、広大な三里塚の大地でのハイキングをかねたジャガイモ作りと、反対同盟の婦人行動隊との交流を深め、労農連帯をより強化してゆくことは、大きな意義があります。今回は、馬鈴薯の植え付けから行ってゆきたいと思います。奥さん、子供さんなど、つれだって参加下さい。



地本サークル協主催

日時——三月一八日（日）
一〇時より
集合場所——成田運転区前
昼食持参—服装は軽装